

関西広域産業ビジョン(2023年改訂版)の概要

01 関西広域産業ビジョンを通じて成し遂げたいこと

- 今を知り、先を読み、ありたい状態を描く
- 自らの強み、価値の最大化に向け、一步踏み出す
- 関西をフィールドに、成長をめざし、挑戦する
- 多様性がイノベーションを生み、イノベーションが成長を加速させる

02 検証 (“これまで” と “これから”)

| 将来像・目標 (2019年改訂版) | 検証 (状況、実績等) |
|---|--|
| 世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西 | ・ 好調なインバウンドの勢いを関西経済に着実に波及 ・ 国際会議の誘致など、ビジネスの面でも関西が優位性を持つ ・ 「人・モノ・投資・情報」が集まり、イノベーションが生まれる地域 |
| 多様な人々が活躍・共生できる関西 | ・ 所得を生み出す、強さと柔軟さを備えた産業の発展 ・ 多様な人材が、働きがいや生きがいを感じながら、自らの能力を活かし、その個性を十分に発揮して活躍する |
| 2040年度の関西（広域経済圏）の経済、産業の国内シェア25%、GRP約180兆円 | ・ インバウンドのリスクを認識した上で産業基盤の強靱化が必要 ・ ビジネス系の国際会議の定期開催など、ビジネスチャンス創出の取組みが重要 ・ 関西でのスタートアップエコシステム形成がさらなる成長のカギ |
| | ・ 国全体で成長が低迷し、所得増の環境に至らず。グローバルスタンダードを意識した生産性向上や産業構造転換への舵取りが急務 ・ 万博の機会も活かし、多様性の受容度・浸透度向上をめざす |
| | 2020年のシェアは19.1%、GRPは102.5兆円。 目標達成には、国をも先導する野心的なチャレンジが不可欠 |

03 関西経済の将来を見通す上で押さえておく主なトレンド

< 主なトレンド >

- 気候変動、地球環境問題
- 社会構造（人口動態）
- 技術革新、DX（デジタル活用）、生産性
- 不確実性（感染症リスク、地政学的リスク、自然災害リスク）

< 基本姿勢（めざす方向性） >

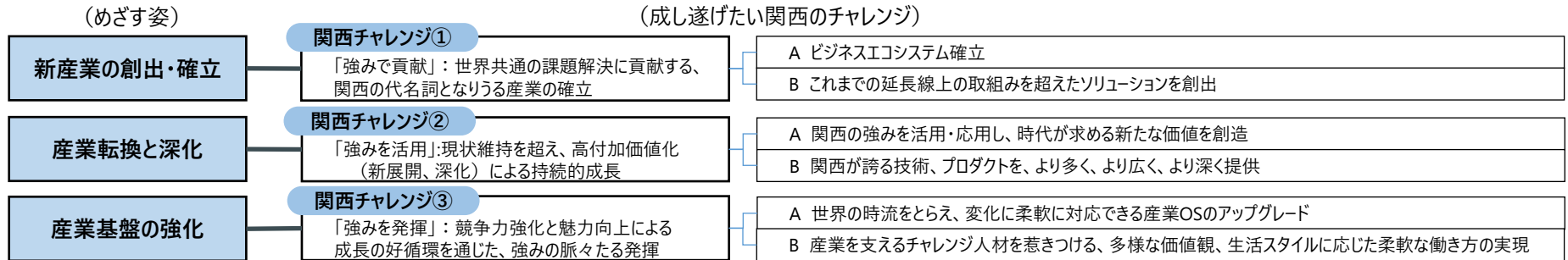
- ・ 技術革新、イノベーションにより解決への貢献と成長の両立
- ・ 脱炭素、脱プラスチックの実践・追求、循環経済の実現
- ・ 課題先進国・日本の技術、ノウハウ、スキルを展開し、課題解決への貢献と成長
- ・ これまでの考え方や価値観にとらわれない、高付加価値化、競争力強化・生産性向上（働き方、人材活用）
- ・ 多様性、迅速性、柔軟性、強靱性を兼ね備えた産業構造への転換

04 関西がめざす将来像・目標（2040年度）

- 【将来像】 「世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西」、「産業を支える多様な人材が活躍する関西」
【数値目標】 関西（広域経済圏）の経済、産業の国内シェアを25%、GRPを約150兆円

05 将来像の実現・目標の達成に向けたアプローチ

06 関西チャレンジ



万博のインパクトを活用した成長シナリオ

万博前後を含む今後当面の3年間をターゲットに、域内への波及に向けたアクションプランを作成。そのイメージを共有

07 関西広域連合のバリュー（存在価値）

シナジー（協働、相乗、相互補完）、スケールメリット（規模の経済、域内最適化）、スピルオーバー（波及、浸透）、ダイバーシティ（多様性、地域特性）